

# 今のあなたはどちらのタイプの人間ですか？

A

- ・予習をしていかないと怒られるからやる
- ・宿題が出たからやる
- ・テストに出ると言われるから新聞を読む
- ・国語力が上がるといわれたから本を読む

あなたはグライダー人間です  
誰かに飛ばされています

B

- ・予習は明日への準備として、分かる事、分からないことを知るためにやる
- ・今日習ったことを忘れないうちにやる
- ・新聞を読んで世の中の動静を知るのは当然だ
- ・ベストセラーになった本くらい読むのは当たり前だ

あなたは自分のエンジンを持っています  
飛行機人間です

いかがですか？あなたは「自発的にやっていく」という力を持っていますか？  
滑空しているグライダーは下降していきただけなのですが、上昇気流に乗ると再び舞い上がる事ができます。  
ただしこの場合もグライダー自体は下降しているのです。  
上昇気流のスピードが下降スピードより速いため見た目は上昇しているのです。  
上昇気流を探せないとグライダーはすぐに下降してしまいます。  
大空を飛びまわるためには、**自前のエンジンを持つことが必要**なのです。



かつて、岐阜高校1年のM君が5月に入塾しました。学志舎では長期休みの講習会前には必ず学習計画を立てます。  
まずは自己分析を行います。自分の学習の現状を鑑み、これからの対策を考えます。  
それをもとに担当コーチと相談をして講習期間中にやる学習内容を決めます。そして計画表に落とし込んでいきます。  
M君はというと全く手付かずでした。何度も説明をして、やっと計画表までこぎつけました。  
聞くと、中学時代は塾から出る大量の宿題さえやっておけば、450点は取れたそうです。  
夏休みが終わり彼は言いました。「僕はやっぱりぼってくれる塾、宿題を出してくれる塾がいいです。」  
そして学志舎を去って行きました。与えられることに慣れ切ってしまっていたんですね。  
450点以上取っていた生徒でも、自分で考えて行動できない生徒がいたんです。驚きでした。  
30年も前に外山氏がこのような警告をしているにもかかわらず、現在もおグライダー人間は増殖しつつあるようです。

外山氏の警告は生徒のみならず、教育に携わる全ての者へも向けられているものです。  
これからの時代、AIやIoTが目覚ましい発展で、子どもたちの半分は、未だない職業に就くと言われてます。  
そんな時代にグライダー人間は生きていけるでしょうか？否、否。  
私は、大空をしっかりと飛べるエンジンを子どもたちが自分に搭載するよう支援することこそが  
教育に従事する者の仕事であろうと考えています。また、結果のみならず、  
結果に至る過程をどのように子どもたちが考え作りだしていくかに最大の注意を払っています。

塾長 山田 勝登



# 学志舎

岐阜市で25年の塾運営経験を活かし、  
お子さまのレベルに合わせたカリキュラムを組み立て、  
徹底した自律学習指導を行っています。

「あなたは何のために勉強をしているのですか？」

「あなたの学習の最終の目的は何ですか？」

さあ、自分で考えて、この春その一歩を踏み出してみませんか？

グライダーと飛行機は遠くから見ると、似ている。  
空を飛ぶのも同じで、グライダーが音もなく優雅に滑空しているさまは、  
飛行機よりもむしろ 美しいくらいだ。  
ただ、悲しいかな、自力で飛ぶことができない。  
学校では、ひっぱられるままに、  
どこへでもついて行く従順さが尊重される。  
勝手に飛び上がったりするのは規律違反。たちまちチェックされる。  
やがてそれぞれにグライダーらしくなって卒業する。  
グライダーとしては一流である学生が、  
卒業間際になって論文を書くことになる。  
これはこれまでの勉強といささか勝手が違う。  
何でも自由に自分の好きなことを書いてみよ、というのが論文である。  
グライダーは途方にくれる。突如としてこれまでと  
まるで違ったことを要求されても、できるわけがない。  
言われた通りのことをするのは得意だが、  
自分で考えてテーマをもてと言われるのは苦手である。  
長年のグライダー訓練ではいつもかならず曳いてくれるものがある。  
それになれると、自力飛行の力を失ってしまうのかもしれない。

人間には、グライダー能力と飛行機能力とがある。  
受動的に知識を得るのが前者、  
自分でものごとを発明・発見するのが後者である。  
両者はひとりの人間の中に同居している。  
グライダー能力をまったく欠いては、  
基本的知識すら習得できない。  
何も知らないで、独力で飛ぼうとすれば、  
どんな事故になるかわからない。  
しかし、現実には、グライダー能力が圧倒的で、  
飛行能力はまるでなし、という  
“優秀な”人間がたくさんいることもたしかで、しかも、  
そういう人も“翔べる”という評価を受けているのである。  
それなら、  
グライダーにエンジンを搭載するにはどうしたらいいのか。  
学校も社会もそれを考える必要がある。

外山滋比古「思考の整理学」より

## 自律学習の徹底

「言われたことはきちんとこなすが、自分で考えて行動を起こすことが出来ない子が多い」  
と言われる昨今、学志舎は「学力」=「学ぶ力」すなわち  
「自分で考えて、学習できる力」と位置づけ、徹底した自律学習指導を行うことにより、  
自分で考えて行動できる子どもを数多く育てています。



勉強の習慣付けを徹底

### 小学部

中学・高校の6年間で花開く  
「基礎学力」を徹底して作るコース



朝6時オールナイト学習会終了

### 中学部

高校受験のための教科力と  
自律の養成を徹底して行うコース



合格おめでとう！

### 高校部

本格的な大学受験のための  
学力形成を徹底して行うコース

## 国語力最優先指導

21年前、学志舎は岐阜市で初めて小学生「読書コース」を創設し、  
国語力の強化に力を入れてきました。なぜなら、  
すべての教科の基本は「国語」だと考えているからです。  
そして、学志舎は、国語力が受験においても大きな武器となることを、  
その結果で証明してきたのです。

## 褒める教育の徹底

褒め上手な親の子は伸びる子が多い、もしくは学力が高い生徒が多いというのは、  
25年の経験の中で間違いありません。  
学志舎は19年前に岐阜県では初めてコーチングを導入し、お子さまの存在を認め、  
良いところを褒めることを徹底して行うことで、お子さまを大きく伸ばしています。

詳細はHPを御覧ください



<https://gakushisha.com/>

〒500-8085 岐阜市白木町92番地  
【お問い合わせ】平日10:00～21:00

☎ 058-265-4562

【感染症対策実施中】

学志舎

検索